

総合研究所 News

聖学院大学
人間福祉スーパービジョンセンター
2008年度 第2回
ピア・スーパービジョン

第2回も人間福祉学科の卒業生が中心となり、企画と運営を担当した。SWnet (Social Welfare または Seig Welfqre) も形成され、卒業生たちがメールなどで情報交換を始めている。このアンケートも卒業生たちが実施したものである。

2009年3月7日(土)

新都心ビジネス交流プラザ4階会議室

参加者 35名

【プログラム】

開会 司会：高橋亜矢 (099W)

挨拶 人間福祉学部学部長 中村磐男先生
ピア・スーパービジョン・プロジェクトリーダー 室井美紀 (098W)

講演 「失敗から学ぶソーシャルワーク」
人間福祉学科准教授・スーパービジョンセンター・スーパーバイザー
相川章子先生

ピア・スーパービジョンの説明

人間福祉学科長 牛津信忠先生

ピア・スーパービジョン

各グループの報告とコメント 牛津信忠先生

その他 Swnet の紹介等

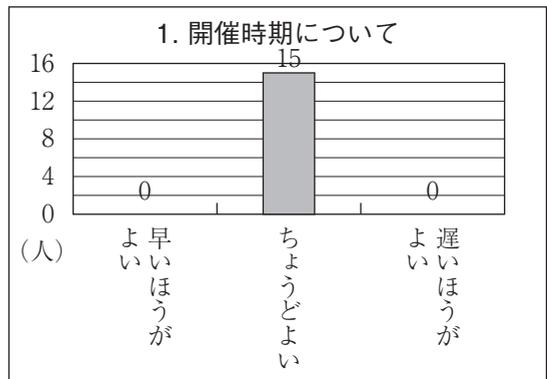
閉会

ピア・スーパービジョン アンケート結果

【研修企画、プログラム、運営について】

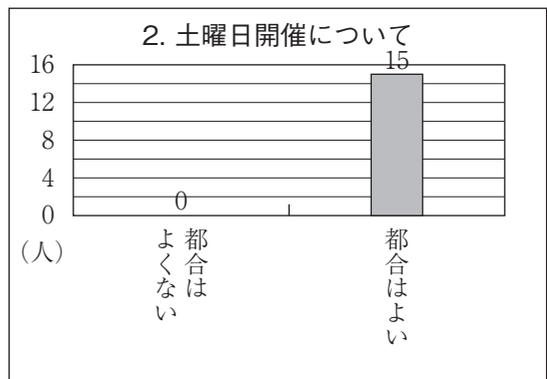
1. 開催時期について

- ・2月くらいでもいいと思います
- ・大学が長期休みに入る前のほうがよいのでは。

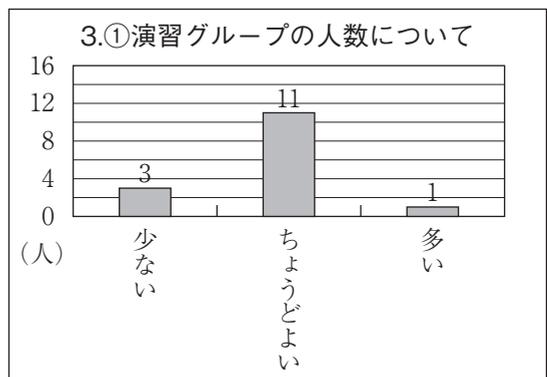


2. 土曜日開催について

- ・今のところは土日休みなので自分は暇だったので都合がよい。
- ・今のところは大丈夫ですが、都合が悪くなるかもです。



3. ①演習のグループの人数について

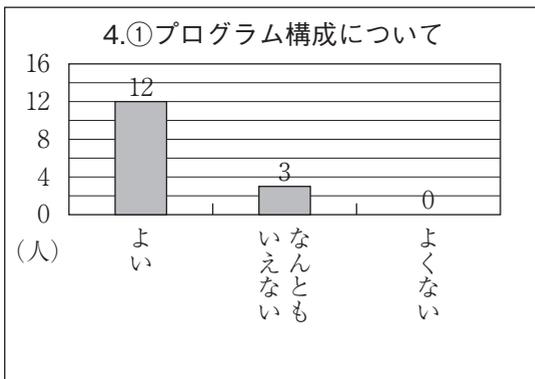


3. ②構成メンバー（職種、経験年数など）は？

- ・よかった。
- ・職種ごとでよかったです。
- ・いろいろな職種の方が集まっていたので、多分野にわたるお話が聞けてよかったと思います。
- ・ちょうどよいのではないだろうか。職種がもう少し欲しい気がした。
- ・もう少し細かくてもよいかもです。
- ・精神の人ばかりなので話しやすかった。
- ・100W が少なかった。

4. ①プログラムの構成について

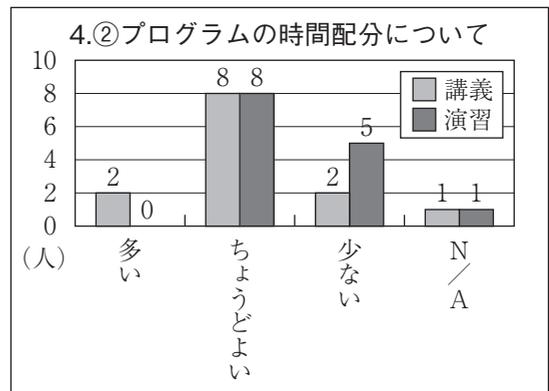
- ・話を聞くこと・話すことが両方あるのでよい。
- ・少しきつかった気がする。
- ・もう少し時間が欲しかったです。



職種ごとに分かれてディスカッションを行った

4. ②プログラムの時間配分について

- ・もう少し多く時間が欲しい。
- ・欲が出てしまうほど充実。
- ・講義をもう少し多くても…。
- ・演習は時間の関係のためちょうどよかった。
- ・もっとたくさん話を聞いたり、情報交換できる時間が欲しかったです。

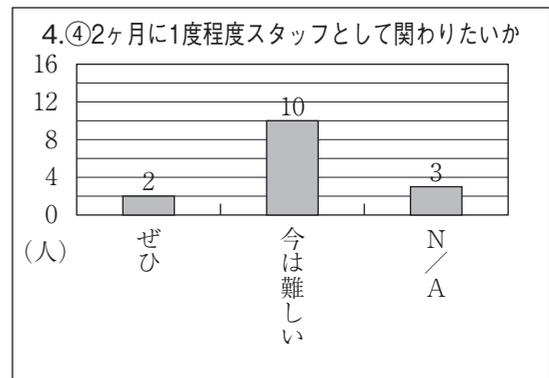


4. ③こんなプログラムがあればよかった

- ・今の仕事発表。仕事について一言言ってもらってもおもしろいのでは。

4. ④スタッフとして関わりたい

- ・ぜひ
- ・夏過ぎくらいなら落ち着いていると思うので少しはお手伝いができると思います。



【内容について】

①ピア・スーパービジョンに参加した動機は

- ・現場を知りたかったので。
- ・相川先生の講演を聞きたいと思ったので。
- ・日々の業務の振り返りをしたいと思ったから。
- ・日頃抱えている悩みを少しでも他者に語ることで、自分なりの解決ができれば。
- ・前回は参加させていただき、とてもよい会だったので今回も参加しました。
- ・前回参加してよかったので。
- ・前回参加して、他の人の話を聞いたり、自分の意見が言えてよかったと感じたから。
- ・前回参加させていただいて、よかったため。
- ・以前から興味があったので参加させていただきました。
- ・友人に誘われて参加。
- ・葉書&政治家からの TEL。

②現在、仕事で困っていることがあればお書きください

- ・業務が忙しいので、実践を振り返る機会がないということに気づくことができました。
- ・時間が足りない。時間に追われている。
- ・仕事の量、内容が増えてしまい、利用者の方とゆっくり話をする時間が減ってしまった。
- ・経営者が変わり、方針や今後の展望がわかりづらくなり、混乱してしまった。
- ・利用者のニーズと施設の方針のくいちがいが多い。
- ・利用者のニーズを全く無視して、どんどん施設が変わっていってしまう。
- ・施設の方向性が見えず（新法移行に向けて）、その日行き当たりばったりの運営になっている。
- ・作業内容に疑問を感じる。
- ・職場の人間関係。
- ・一番は職員との関係。
- ・向上心、意欲の職場内のすれ違い。
- ・日によって自分の感情の起伏が激しい。

- ・時たま、自分の思いを押つけているんじゃないかと迷う時がある。

今回のピア・スーパービジョンのお知らせ

日時：2009年10月10日（土）

13：30～17：00

場所：聖学院大学4号館4階

料金：無料

対象：保健・社会福祉現場で働いている人、福祉の現場を応援したい人

第6回 聖学院大学都市経営シンポジウム 「新たな国のかたちを問う」 —道州制と大都市圏のあり方— 実施結果 —アンケート集計結果の概要—

日時 2009年4月17日（金）17：30～20：30

場所 大宮ソニックシティ 小ホール

【プログラム】

主催者挨拶

阿久戸光晴（聖学院大学学長）

基調講演1 「国民を元気にする〈国のかたち〉
地域主権型道州制のすすめ」

江口克彦（PHP総合研究所社長）

基調講演2 「大都市と地方の格差——道州制で
格差解消は可能か」

土居丈朗（慶應義塾大学教授）

パネルディスカッション

「新たな〈国のかたち〉を問う——道州制と大都市圏のあり方」

パネリスト

上田清司（埼玉県知事）

江口克彦（PHP総合研究所社長）

土居丈朗（慶應義塾大学教授）

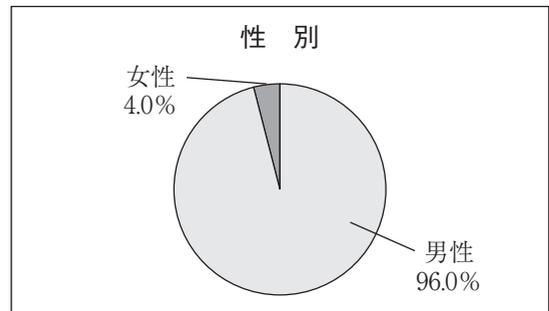
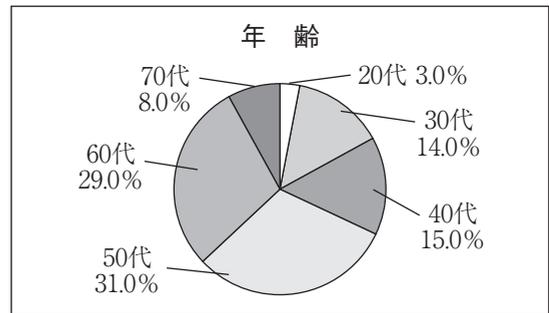
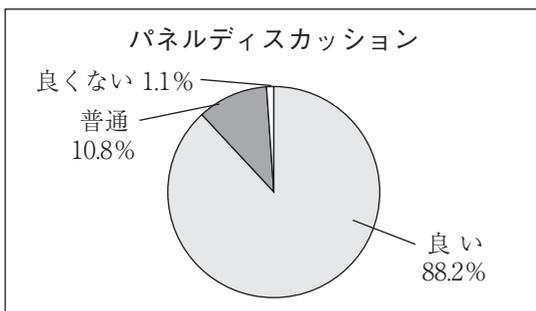
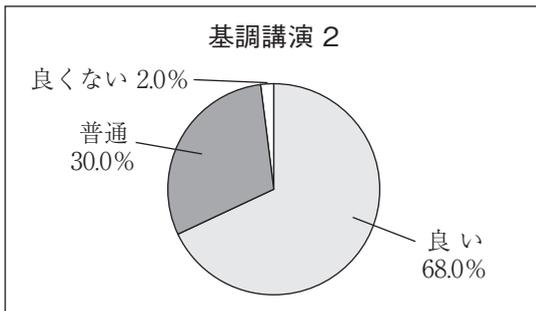
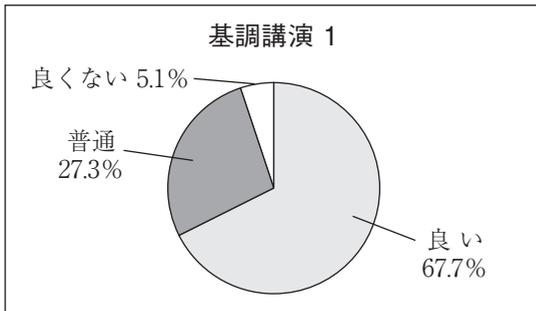
コーディネーター

佐々木信夫（聖学院大学総合研究所客員教授、中央大学教授）

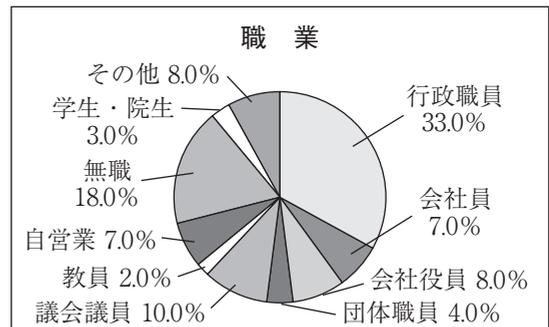
閉会

【結果の概要】

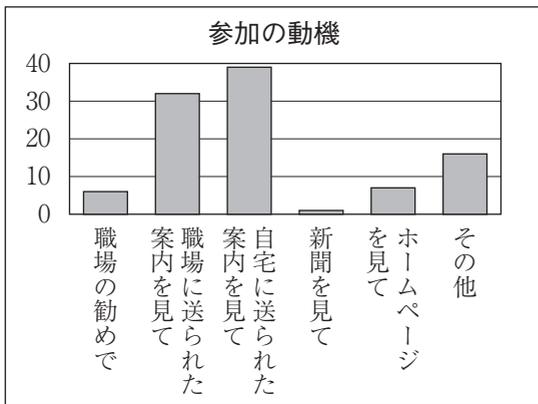
- ・参加者は165名。うち、アンケート回答者は102名だった。
- ・基調講演1について「良い」が67%、基調講演2について68%だった。
- ・パネルディスカッションについて、「良い」が88%と高い評価を得た。
- ・自由意見として、「参考になるシンポジウムだった」「道州制についてよくわかった」「時間が足りなかった」など。



*年齢別では、50代が最も多く31%、次いで60代29%、40代15%となった。
性別は男性96%と大半を占めた。



*職業別では、「行政職員」が最も多く33%、次に「無職」18%、「議会議員」10%となった。「その他」の内容は、「学校職員」「福祉関係職員」「NPO理事」「研究員」など。



*参加の動機として、「自宅に送られた案内を見て」が最も多く、次に「職場に送られた案内をみて」だった。

「その他」の内容は、「友人の誘い」「大学院での案内」「先生から案内をもらった」「議会事務局での案内」など。

自由意見

- ・道州制をやるとミニ東京が増えるのではないのでしょうか。逆にさびれるところも増えるのではないのでしょうか。北海道を見るとそんな感じを受けます。
- ・たいへん参考になるシンポジウムでした。次回はより具体的な自活のあり方、行政の進め方についての話を聞きたいと思います。
- ・地域の文化、伝統というものを残し、継承しつつも新しい制度に変えることの難しさを感じ、道州制そのものに少し疑問を感じていましたが、今回の議論で少しつかえがとれた気がします。今より少しでも良い地方自治を目指すためにベストではなく、ベターな選択を勇気をもって行う時期かもしれません。
- ・今の政治制度でよいはずはない。早く道州制に変えるべきだ。投票のとき、マニフェストをよくチェックします。
- ・道州制に関する意識が、本日のシンポジウムに参加することによって高められました。道州

制によって競争原理が働き、結果として国全体の成長が達成されるという考え方に共感しました。

- ・道州制について建設的なお話が聞けてよかった。埼玉としてどうするか、という立場のお話が聞けるともっとよかった。
- ・基調講演2の土居教授はたいへんわかりやすく、役に立つ話でたいへん勉強になりました。パネルディスカッションはハイレベルの討論会。勉強させていただきました。
- ・税の問題は本当に難しいし、理解されるのに困難が多いのではないかと思います。道州制についても、もっとじっくり勉強する機会がほしいと思いました（市民の立場で）。道州制の区分について、今後の埼玉県の位置づけ等の考え方を上田知事より詳しく聞くことができ、今後もぜひお聞きしたいという関心を持ちました。
- ・経済活動は行政市域を越えて営まれることがほとんどですが、道州制によって、各道（州）間の分断が強調されると、経済活動が阻害されるのではないかと懸念しました。
- ・今までまじめに考えていなかった道州制の現実と必要性について新しい視点を学ぶよい機会になった。さらに勉強を続けたいと思いました。上田知事の言われる競争原理の導入は大賛成。
- ・江口先生の著書を読んだときにはいまひとつピンときませんでした。上田知事・土居先生の話もふまえると実現可能性がある（というか実現したほうがよい）気になりました。江口先生にはこれからも中枢でがんばってほしいです。
- ・江口社長は知識や主張があるが、議論の流れを無視しているのでせっかくのシンポジウムを実のある方向にしていない。佐々木教授がうまく流れをつくっていただいたので、ある程度形にはなったが、もう少し流れを理解する方のほうが議論がおもしろくなったと思う。
- ・これからは道州制の必要は大ですが、国の議員たちにしっかり勉強していただきたいと思います。「国のかたち」を問うていくための先生が

たの努力を期待します。

- ・道州制は地域の活性化のみならず、さまざまな問題・課題の「見える化」につながると思います。ネックは現在の政治の負でしょうか。ドラスティックな諸改革を実行するためのパワーが感じられないのが残念です。
- ・基調講演1：講師の話のスピードが速すぎる。時間的な問題なのか？ 講師の癖なのか？ 総合的でなくポイントを絞った形の講演が聴きたかった。基調講演2：話の内容に対して時間が短いように感じる。
- ・多くの坂本龍馬が出てほしいものです。会場に人があふれるほどの熱気が必要ですね。国民のメリットが不明瞭で残念でした。デメリットはもっとはっきり具体的に説明してほしいです。本日はたいへん参考になりました。ありがとうございました。
- ・講演2者のお話内容について、自前で生きられるような元気をいただいたと思います。知事の元気なお話を拝聴しまして元気をいただきました。県民のリーダーとしての将来のビジョンをご説明されました。本当に道州制区制などについては理解できましたが、具体的資料で説明していただきたいと思います。本日はありがとうございました。
- ・休憩時間に質問票を記入しましたが回収ボックスは？ 次回は回収ボックスのためのスタッフをお願いします。貴重なお話を伺うことができ、また本までいただきたいへんありがとうございました。
- ・混迷する日本の切り札→道州制への移行について概略を理解できました。10年後を目途と言わず、スピードアップを図って審議してほしいものである。
- ・強い日本を創るには「道州制」は避けて通れない。国の借金を減らす、あるいは税金のムダ使いをなくし、医療・福祉・介護・治安・教育に税金を効果的に使うべき。政治家・官僚・地方行政マンが多すぎる。改革断行！

- ・佐々木先生のコーディネートが明確でわかりやすかった。パネリスト一人一人の話も十分聞けてよかった。
- ・参加して大いに参考となり勉強になった。このようなシンポジウムの充実を願います。
- ・上田知事の明確な意見よく理解できた。貫いてほしい。支持したい。
- ・道州制にかかわる税の話も勉強になった。議会もお願いしたく考えます。
- ・地方のほうに能力があるとの江口氏の言葉は元気がでる。うれしい一言であった。
- ・道州制実現への具体的な道筋を論じて欲しい。
- ・道州制に早く移行すべきである。苦しい時こそ早くやるべき。
- ・政治体制との関連は？ 自民、民主党はどのように考えているのか。
- ・道州制移行への必要性や効果がたいへんよくわかりました。
- ・基調講演が急ぎ足であった。一人の方でゆっくり聞きたかった。ありがとうございました。
- ・たいへん有意義なシンポジウムである。今後もぜひ継続していただきたい。
- ・上田知事は明確にして説得力あり。
- ・「地域のことは地域で！」という意見に賛成です。
- ・上田知事の話は迫力があつた。



道州制についてパネルディスカッションが行われた

- ・道州制についてよくわかった。
- ・道州制の推進を望みます。
- ・本のプレゼントありがとうございました。
- ・土居さんはわかりやすい。江口さんの基調講演は少しわかりにくかった。
- ・パネルディスカッションで、議論がかみ合わなかったように思います。区割の問題が先に出てきたことで、他の論点がぼやけてしまったかもしれませぬ。
- ・時間配分について、パネルディスカッションを長くってはしなかった。
- ・基調講演2は論点がぶれて、道州制の必要性がわからない。
- ・時間が少ないのか、内容が豊富なのか。

新機軸の研究会 憲法研究はじまる

学校法人聖学院では、2000年から2003年にかけて、幼稚園から大学、大学院までの全法人の教職員、PTA、卒業生が参加した「聖学院教育会議」を開催した。創立100年を迎え、また新しいミレニアムに向けて、全法人で取り組む教育の目的を確認したのである。

2002年11月14日に「聖学院教育憲章」を宣言した。その第一項「聖学院教育の根本目的」には「聖学院は、日本国憲法（1946年制定）と教育基本法（1947年制定）に示された理想の実現を図り、将来の日本および国際社会に貢献する人間を育成することを教育の根本目的とする」と掲げられている。

ここに記されている「日本国憲法」は、「大日本帝国憲法」とはなにが根本的に違うのか、この研究課題は、聖学院教育の根幹に関わるものである。

そこで2009年度から「大日本帝国憲法から日本国憲法へ——憲法史の観点から」（憲法研究会

と略）を研究主題として共同研究が開始されたのである。

「研究課題の概要」は「近代憲法の出発点となり、公理ともなったフランス憲法の影響を受けつつ成立したドイツ憲法をモデルとして制定された大日本帝国憲法について、ドイツ憲法をモデルとして選択した経緯、ドイツにおける憲法調査の状況、憲法制定へのドイツ人の関与、憲法の解釈・運用にたいするドイツ憲法学の影響、ドイツ憲法をモデルとしたことの功罪などを検討し、この検討を踏まえて、日本国憲法がアメリカ憲法の強い影響を受けて成立したことの持つ意義を明らかにする」ことである。

2009年度は下記の9回の研究会が計画されている。なお主題は仮題である。

- 1) 4月20日、「フランス憲法の定式性」樋口陽一東大名誉教授
- 2) 5月11日、「ドイツ憲法の一般性と特殊性」栗城壽夫総研特任教授
- 3) 6月15日、「ドイツを準拠国とした経緯」滝井一博（国際日本文化研究センター准教授）
- 4) 10月19日、「井上毅と明治憲法」大石眞（京都大学教授）
- 5) 11月9日、「明治憲法制定へのドイツ人の寄与」堅田剛（獨協大学教授）
- 6) 12月7日、「ドイツ憲法と明治憲法」石村修（専修大学教授）
- 7) 1月18日、「ドイツ・オーストリアにおける憲法研究」滝井一博（国際日本文化研究センター准教授）
- 8) 2月8日、「ドイツ憲法学の日本憲法学への影響」国分典子（筑波大学教授）
- 9) 3月8日、「ドイツ憲法学の影響を受けなかった憲法学」井田輝敏（北九州大学名誉教授）

韓国・長老会神学大学校との 「交流提携」にもとづく 交換教授プログラムがはじまる

2008年9月19日に、聖学院大学（聖学院大学大学院、総合研究所）と韓国の有数の神学大学校である長老会神学大学校との「交流協定」が両大学の理事長・学長の署名により締結された。神学大学校といっても、学部1000名、大学院2000名の学生を抱える大学であり、大学院はソウル大学出身者も進学することが難しいといわれる。統合派長老教会が設立した神学大学であり、大学院は牧師養成が中心であるが、キリスト教音楽、キリスト教教育も専攻できる。

「交流協定」には、教授交換も含まれており、その第一回として、総合研究所助教の高萬松（こう・まんそん）氏を2009年5月11日から8月7日まで長老会神学大学校に派遣することになった。

高氏は、聖学院大学大学院アメリカ・ヨーロッパ文化研究科においてフォーサイス研究で博士号を取得した研究者であるが、長老会神学大学校では、特に「韓国と日本のキリスト教の神学史的比較——これからの両キリスト教会の協働をめざして」を主題に研究交流をすることになっている。

2009年4月に、総合研究所の日韓現代史研究センターの康仁徳客員教授、池明観客員教授、小田川興客員教授から、「日韓関係100年〈1910-2010〉と日韓キリスト教会に関する日韓共同研究」が提案され、6月8日に開催された総合研究所委員会で共同研究を実施することが決議された。高萬松助教は、長老会神学大学校とこの研究の実現に向けて折衝を担当することになったのである。

なお、この共同研究は「日韓のキリスト教史を1910年を起点におき、日韓関係の未来に向けて前向きに捉えなおす。北朝鮮、中国を視野に入

れ、北東アジアのキリスト教会のこれからの交流と協力の基盤を築く。また研究の基礎に第二次世界大戦後に制定された日韓両国の「憲法」研究を置く」ものである。

年度ごとの計画は、

2010年 第一年度 日本の朝鮮併合政策と日韓キリスト教

2011年 第二年度 3・1運動と日韓キリスト教（解放まで）

2012年 第三年度 日本のアジア侵略・解放後の交流そして今後の日韓交流とキリスト教（1945年以後の日韓関係とキリスト教会）

歴史研究が基礎となるが、日韓両国の市民社会の形成にキリスト教がどのように関わるか、また北東アジアの平和と協力をめざすために日韓キリスト教会がどのように協力できるかを研究する現代の課題に取り組むものである。

研究方法としては、①資料の収集と保管（両国機関に）、研究成果（論文・著書など）の収集。②国際シンポジウム・セミナーの開催（東京、ソウルで開催）③日本語、韓国語、英語による出版、が考えられている。

なお、第二回教授交換は、2009年8月から11月まで総合研究所准教授、宮本悟氏を派遣することになった。

聖学院大学総合研究所 Newsletter

Vol.19-1, 2009

2009年7月30日発行

発行人 大木 英夫

発行所 聖学院大学総合研究所

〒362-8585 埼玉県上尾市戸崎1-1

TEL: 048-725-5524 FAX: 048-781-0421

e-mail: research@seigakuin-univ.ac.jp

Homepage: <http://www.seigakuin-univ.ac.jp>
